

## 令和5年度東近江行政組合消防本部消防職員意見発表会を開催しました

東近江行政組合消防本部では毎年、消防職員の自己啓発推進を目的に意見発表会を開催しています。この意見発表会は、消防職員が日々の業務の中で感じていることや、災害現場等で経験したことを通し、今後自分自身や消防の組織がどうあるべきか等の考えや決意を述べる場となっています。

今年度は、南川喜代和副管理者を審査委員長とした5名の審査委員により、令和5年12月15日(金)、消防本部屋内訓練場において実施し、11名の出場者から最優秀者と優秀者の計2名が選出されました。

〈発表内容〉

『最優秀賞』

・消防士 越後翔太 『境界線を越えて』

近年、災害は複雑多様化し災害に対応するためには専門的知識が必要とされる場面が多くなってきている。当消防本部ではその先駆けとして既に大型の重機やドローンの要請など民間企業と協定を締結し、特殊災害に対応する備えをしているが、「餅は餅屋」ということわざがあるように、複雑多様化する災害に対応するためには、それぞれの分野の専門家が協力することが住民にとって最善だと考える。

官民の境界線を越えることは簡単ではない。しかし、要救助者を救うためには、その境界線を越え、命を守るために必要な情報や技術を共有して行くべきだと発表した。

『優秀賞』

・消防副士長 松居秀明 『1秒でも早くその場所へ』

緊急時に使用する119番通報。早く助けて欲しいと思い要請した緊急車両。私達はその思いに応えるべく、職務に当たっている。先日、小学生が職場見学に訪れた際119番通報に挑戦してもらったが、一番苦戦していたのが場所を伝える時だった。日頃よく利用するところでも、人に場所を伝えるのは難しいため、通報要領について訓練をしておく必要がある。現在は各小学校には児童に一台タブレットが配付されているところもある。そこで映像配信型の訓練を実施してはどうか。消防のあらゆる分野でデジタル化が進む中、指導方法も変革の時が来ています。幼いころから通報方法を学ぶことで、より迅速な出動指令に繋がると発表した。

なお、上記2名は、令和6年2月2日(金)に滋賀県消防学校で開催されます第49回滋賀県消防職員意見発表会に出場します。